

全国学力・学習状況調査の結果から

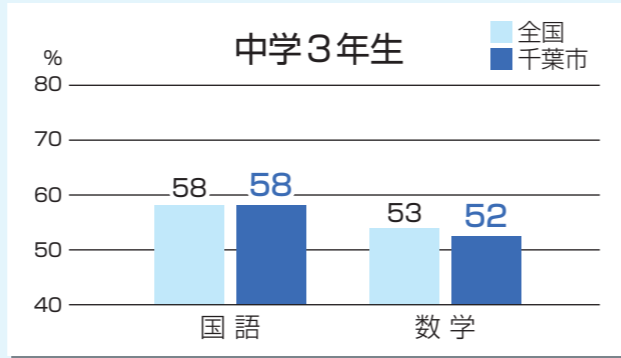
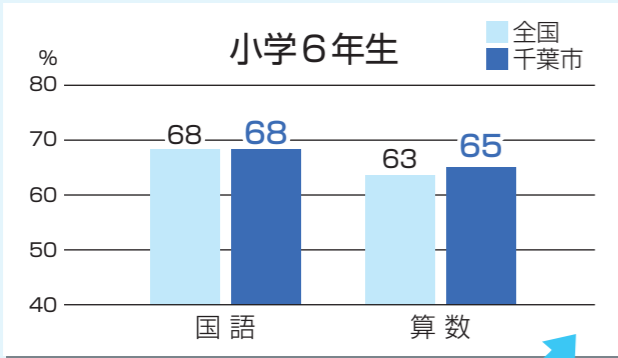
「全国学力・学習状況調査」は、児童生徒の学力状況を把握するために、文部科学省が毎年小学6年生と中学3年生を対象に実施しています。本年度は国語、算数・数学の教科に関する調査と、児童生徒質問調査を行いました。調査結果の詳細は、市のホームページで公開しています。



1 教科に関する調査の結果

千葉市の平均正答率は、小学生は全国（公立）の平均正答率と同等か上回る結果となり、中学校は国語が同等、数学はやや下回る結果となりました。

全国との平均正答率の比較



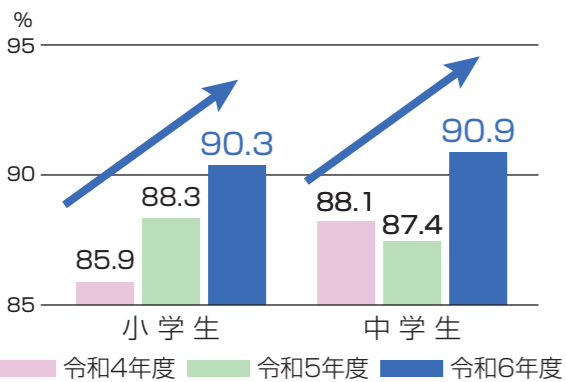
さらなる学力アップに向けて

教育委員会 各教科の指導を改善していくための方向性やポイント等を示した資料を作成し、教員の指導力を一層高め、授業改善を推進していきます。

学校 児童生徒の実態や調査結果の分析を基に傾向や課題を把握し、「学力向上アクションプラン」の見直しを積極的に行い、重点テーマや具体的な方策を設定し、授業改善を進めていきます。

2 児童生徒質問調査の結果

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という質問に対する肯定的な回答をした割合



肯定的な回答の割合は、小学生が90.3%、中学生が90.9%であり、過去2年間と比較しても上昇傾向にあります。子どもたちが自己の成長を実感することができるよう、今後も学校では、次のことを大切にしていきます。

- 育てたい資質・能力を意識した授業づくり
- 子どもたちのよさが発揮される場面づくり
- よさや頑張りを共有し、学び合える集団づくり

多様な学習場面において、ギガタブ（タブレットPC）を活用していきます！

ギガタブの活用により、子どもたちの多様な学びが進められています。自分の学習を記録することで自分の成長に気付けるようにしたり、意見交換を行い、互いのよさを認め合ったりすることで、個別最適・協動的な学びの一体的な充実を図ります。

3 課題が見られた設問例

中学校数学問題（一部抜粋）

複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較する

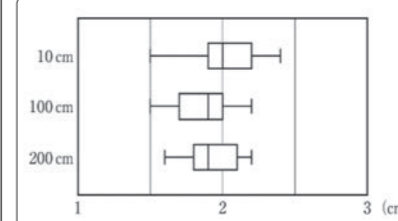
車型ロボットの説明

- 障害物からの距離を測定できるセンサーがついている。
- プログラムの②、④に値を入れることによって、車型ロボットの速さと、障害物からの距離を設定し、車型ロボットの動きを止めることができる。
- ②は、速さとして最も遅い段階1から最も速い段階5まで設定できる。
- ④は、距離として3cmから500cmまで設定できる。

プログラム

段階②の速さで前に進む → 障害物からの距離が④cmより小さいことを感知する → 止まる

設定した位置から進んだ距離の分布



	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
10cm	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
100cm	1.5	1.7	1.9	2.0	2.2
200cm	1.6	1.8	1.9	2.1	2.2

障害物からの距離を長くしていくと、四分位範囲はどうなりますか。設定した位置から進んだ距離の分布から読み取り、正しいものをアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア 四分位範囲はだんだん大きくなる。
- イ 四分位範囲はだんだん小さくなる。
- ウ 四分位範囲は大きくなって、小さくなる。
- エ 四分位範囲は小さくなって、大きくなる。
- オ 四分位範囲は変わらない。

正答
オ

このような問題では…

日常生活や社会の事象を題材とした問題などに取り組み、統計的に問題解決できる力を身に付けることを目指します。そのためには、問題解決の計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させることが大切です。

小中学校を通して

「箱ひげ図は、身の回りで使われています。」
複数のデータの傾向を比較するときには、箱ひげ図を用いることが多いです。通信速度の計測結果や株価のチャートは広告やテレビでよく扱われています。
データの傾向を比較し、それに基づいて判断する力は、これからの社会で必要です。データの活用の学習は算数・数学で9年間通して行われています。それぞれの学年で学んだ内容と身の回りのデータを結び付けて考えてみると良いです。

中学校国語問題（一部抜粋）

楷書と行書の特徴について理解し、文字を書く



田中さんが、短歌を紹介するための資料の中に、テーマである「月と風景」を行書で書きました。
次の㉗～㉚までの部分の書き方について説明したのとして最も適切なものを、あとの1～4までの中から1つ選びましょう。

- 1 ㉗の部分は、楷書とは異なり点画を連続して書いている。
- 2 ㉘の部分は、楷書とは異なり点画を直線的に書いている。
- 3 ㉙の部分は、楷書と同様に終筆を止めて書いている。
- 4 ㉚の部分は、楷書と同様に点画を省略して書いている。

正答
1

このような問題では…

今回取り上げた「行書」については、中学1年生で学習します。「楷書」と異なるのが、同様なのかの見分けは、小学校各学年で学習する「楷書」の特徴について理解し、中学校において、行書と楷書を比較することで、その違いが理解できます。
書写は実技を伴います。点画等の特徴を捉えるには、まず用語の知識を得るとともに、実際に文字を書き、自分の目で比較して確かめることが大切です。

小中学校を通して

「書写の学習について、身近な人と話題にしてみましょう。」

- 小学校1・2年 硬筆 <楷書>
- 小学校3～6年 毛筆 <楷書>
- 中学校1～3年 毛筆 <楷書から行書>

このように、9年間の学習を積み重ねることによって、用途に応じた文字を書く力が身に付きます。今学習している内容が、最終的に実社会において生きる力になることを覚えておくことが大切です。
正しい点画について理解したかなどを、作品を通して身近な人と話題にすると良いです。



出典：「令和6年度 全国学力・学習状況調査 中学校国語調査問題、中学校数学調査問題」※問題は誌面の都合上、一部編集しています。



「新たな気付きや学び」を身近な人と話題にする環境は大切

小中学生とも、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりできると考えている割合は全国より低くなっています。国語や算数・数学の問題において、既習事項と比較したり関連付けたりして考えることに課題が見られました。学習で新たに得られた気付きや学びを、身近な人との会話を通して共有することは、学習したことを振り返り、日常生活との関連について考えるために、非常に重要です。